

氏名	大谷裕子
授与した学位 専攻分野の名称 学位授与番号 学位授与の日付 学位授与の要件	博士 医学 博乙第3176号 平成10年3月25日 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	第1編 Microanatomy of rat diaphragm: A scanning electron and confocal laser scanning microscopic study (ラット横隔膜の微小解剖：走査電子顕微鏡並びに共焦点レーザー顕微鏡による研究) 第2編 Obliteration of the lymphatic trunks draining the diaphragmatic lymph causes peritoneal fluid to enter the pleural cavity (横隔膜の排導リンパ幹の閉塞は腹水を胸腔へ移行させる)
論文審査委員	教授 村上 宅郎 教授 佐々木 順造 教授 槇野 博史

学位論文内容の要旨

連続携帯式腹膜透析(CAPD),あるいは腹水を伴う疾患では胸水が発生することがある。しかし、胸水が起こる機構は未だ十分に解明されていない。本研究は、腹腔の液体が胸腔に移行する機構を解明するために行われた。横隔膜の中皮細胞は微絨毛に覆われ、中皮細胞間に中皮下リンパ管がリンパ管小孔として、ラッパ状に開口していた。ラットの腹腔内に2ml/100g体重の墨汁を注入して傍胸骨リンパ幹を結紮し、30分、1、2、5、20時間後に横隔膜と前胸壁を電子顕微鏡と光学顕微鏡で観察した。腹腔内の墨汁は、リンパ管小孔から横隔膜腹膜中皮下のリンパ管に入り、胸腔側中皮下のリンパ管を経由して、排導リンパ幹に流入していた。傍胸骨リンパ幹を結紮した場合、墨汁が結紮側の前胸壁に漏出し、20時間後には、胸腔にも多量に漏れていた。以上の結果より、横隔膜のリンパを排導するリンパ幹の閉塞あるいは狭窄が胸水を発生させることが明らかとなった。

論文審査結果の要旨

本研究はラット横隔膜にはリンパ管が小孔として腹腔に開口していることを形態学的に明らかにし(第1編)、また傍胸骨リンパ管を結紮すると腹腔内に注入した墨汁が胸腔内に流れ込むことを示し(第2編)、横隔膜のリンパを排導するリンパ管の閉塞あるいは狭窄が胸水を発生させることを実験的に証明した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格がある。